



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.net>

第 48 号・2018 年 3 月発行

北加日本語教師会 2018 年春の例会

Sunday, April 8

University of San Francisco

会長挨拶・
お知らせ



会長挨拶・お知らせ
永田憲子



季節も春めいて日も長くなってきたのが感じられます。春休みで一息ついた先生方も多いことでしょう。春学期後半を、また皆様方の刺激を受けながら、頑張っていきたいと思います。

さて、春の例会が4月8日（日）と近づいてまいりました。今回は、「社会問題を扱った日本語授業」というテーマで、カリフォルニア州北サリナス高校の安座間喜治先生をゲストスピーカーにお招きして、サンフランシスコ大学で開催致します。安座間先生

は去年のACTFLで、日本語のクラスの生徒たちが身近な社会問題（スマホ中毒、環境問題、サイバーいじめ、家庭のしつけ、ホームレス、等々）に組み研究発表するプロジェクトを、カリフォルニア州立大学のアボット先生と紹介していらっしゃいました。私もそのセッションに参加したので、これは是非、NCJTAの例会でもお話して頂けたらと思っていました。私たちの身の回りには、生活を支え豊かにしてくれることがたくさんありますが、反面、行き過ぎている点や不足している点が多々あります。学生が、このような身近な社会問題に対して、意識を高め、分析力を養い、理解を深め、問題解決に向けて案を練るのは、非常に大切な教育の一環だと思います。そして、それを日本語授業に組み入れて、日本語能力の向上につなげていくことは、素晴らしいと思います。

春の例会では、安座間先生の講義とそれに基づいたワークショップを企画しています。ワークショップでは、小・中学校・高校・大学とレベル別に、具体的にどのような社会問題が扱えるか、教師は学生の批判的思考能力を高めるためにどんな工夫・学習援助ができるか、そして学生の学習結果をどのように評価できるかを話し合っ、今後の授業にいかせるワークショップになればと思っています。

以下が春例会のおおまかなスケジュールになっております。皆さまお誘いの上、是非お越しください。

4月8日（日曜日）春例会のプログラム

University of San Francisco
Kalmanovitz Hall 211, 2130 Fulton Street, San Francisco, CA 94117

10:00 会費納入・例会登録の受付（お茶・お菓子のサービスあり）
当日お弁当の申し込みはできません。

10:30 -10:35 会長から開会の挨拶 永田憲子

10:35-11:25 講演 安座間喜治
「社会問題を扱った日本語授業：プロジェクト例」

“Let’s Talk About the Dark Side” -- Bringing Liberty and Justice for All students

Does your lesson content sound like a travelogue year after year? Are we missing opportunities to engage our students in deeper topics? World language classrooms provide a unique advantage to examine human and environmental issues. Explore one teacher’s journey in bringing social justice issues to the center of the lesson and how it connected students’ hearts and minds in becoming agent of change.

11:30-12:30 ワークショップ 1
「社会問題を扱った日本語授業：トピック選択と問題内容吟味」

12:30-1:30 昼食・懇親会

1:30-2:30 ワークショップ 2
「社会問題を扱った日本語授業：アサイメント作りと評価基準の設定」

2:30-2:40 会長から閉会の挨拶

2:45-3:15 NCJTA役員会

なお、申し込み締め切りは3月30日（金曜日）となっています。申込用紙にご記入の上、会計役員までお申し込みください。（詳しくは以下「会計から」の欄をご参照下さい。

総領事ご挨拶



ご挨拶 宇山総領事

本年2月、在サンフランシスコ日本国総領事として着任しました宇山智哉（うやま ともちか）です。

私は1986年に外務省に入省して今年で32年となりますが、その間、本省や在外（スイス・ジュネーブ、エジプト、フィリピン、韓国）で、WTOやEPAなどの貿易交渉、G7・G20サミット、邦人企業支援、政府開発援助など、主としてわが国の経済外交を担当してきました。米国赴任はこれが初めてとなりますが、入省後最初に研修で2年間過ごしたのが米国で

あり、また、それ以前の大学時代に初めて短期間訪れた外国も米国で、徐々に「第2の故郷」に帰ってきた心境です。とりわけ、大学の夏休みに訪問したホームステイ先がベイエリア北部のマリン・カウンティであり、懐かしいサンフランシスコに総領事として戻って来られたことを大変嬉しく思います。



広い米国本土にあって、遙か太平洋の大海を臨むサンフランシスコは、1860年に江戸幕府から派遣された咸臨丸が寄港して以来、日米の激動の歴史の舞台となってきました。その間多くの先人達が多大な困難を経験し、乗り越えてこられました。今日のこれまでにない深い信頼関係に基づく堅固な日米関係があるのは、こうした先人たちの必死のご努力によるものと感謝しております。

こうした日米の友好関係を維持し、更に発展させていく上で、政府間の関係はもちろんのこと、市民レベルでの相互理解を高めていくこと、特に将来の日米関係を支える若い世代の対日関心と対日理解を高めていくことが大変重要です。その上で日本語教育が果たしている役割は非常に大きく、現場における先生方の日々のご尽力に心より感謝申し上げます。国際交流基金の2015年の調査によれば、米国における日本語学習者総数約17万1千人中、カリフォルニア州は国内最大の約4万1千人を誇っており、その数は増加傾向にあるとのことでした。これは歓迎すべきことであり、より多くの若者が日本語の学習を通じて日本の文化や社会に対する理解を深め、ひいては親日家・知日家として育ていくことを期待しています。その一方で、日本語教師の不足、外国語教育予算の削減、他言語への関心の高まり等、日本語教育プログラムを維持していく上で難しい状況もあると聞いています。当館としては、そのような状況を少しでも改善し、当地における日本語教育をこれまで以上に盛り上げていくことができるよう、北加日本語教師会をはじめとする教育関係者の皆様と日頃から連絡を密にし、今後ともできる限りの協力を行ってまいりたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。



NCJTA 会計から

NCJTA の会費は一般 15 ドル、学生 5 ドルです。2018 年度分の会費 (2018 年 1 月から 12 月まで有効) を未納の方は本ニュースレターに添付の会員申込書とともにチェックをご郵送ください。昨年までの会費が未納の方も、今年のみ会費で結構です。

尚、春の例会では事前に申し込みいただいた方に、お弁当を無料でお配りいたします。当日のお弁当の申込みは受け付けませんのでご了承ください。例会への申し込みは本ニュースレターに添付の例会申し込み用紙にチェックを添えてご郵送ください。例会の事前申し込みの締め切りは 3 月 30 日、金曜日 (必着) です。皆様のご参加をお待ちしております。

チェック支払先: NCJTA
チェック送付先: Mayu Kondo Loffgren
San Jose State University
Department of World Language and Literatures
Clark Hall 421, One Washington Square
San Jose, CA 95112-0091

事前登録締め切り : 3 月 30 日 (金) 必着

(文責: 近藤・斉藤)

役員改選

任期満了に伴い、ニュースレター編集、高校代表、学園代表が改選となります。役員に立候補ご希望の方、もしくは推薦なされたい方は立候補用紙にご記入の上、下記永田会長の住所あるいはメールアドレスにお送り下さい。
(4 月 6 日必着)

宛先 : Noriko Nagata
Modern and Classical Languages, Kalmanovitz Hall 382
University of San Francisco
2130 Fulton Street, San Francisco, CA 94117-1080
nagatan@usfca.edu

春の役員会議事録

日時 : 2018 年 1 月 21 日 午前 11:00 時より午後 1 時まで

場所 : 211 Kalmanovitz Hall, University of San Francisco

出席者 : 永田、南、斉藤、三上、神原、高松、和氣、田中、宇田、清水、須田

議題

➤ 2017 年秋の役員会の議事録の承認

➤ 役員任期満了に伴う役員改選について

三名の役員 (ニュースレター、高校代表、学園代表) が 2018 年秋で任期満

2017 年
秋の例会報告



了のため、役員公募を実施

➤ 会計報告

➤ 2018 年春の NCJTA 例会について

- 4 月 8 日（日）University of San Francisco (USF)にて開催
- テーマは「社会問題を扱った日本語授業」で、昨年の ACTFL で「Social Justice-Focused Thematic Unit」について発表された北サリナス高校の安座間先生を招いてレクチャー、ワークショップをしてもらう。

➤ 春のニュースレターについて

➤ 「第 46 回小学生お話大会」について

- 北加日米会、サンフランシスコ総領事館、NCJTA 共催の「小学生お話大会」が 2018 年 3 月 4 日に開催される。NCJTA も共催のため、100 ドルを寄付

➤ セミナー、ワークショップのお知らせ

- CAJLT/LIGHT Awards (Intrepid Philanthropy Foundation) 共催の日本語に関するセミナーが 4 月 29 日（日）サンフランシスコアジア美術館で開催される。テーマは将来の日本語教育とネットワーク作り。キーノートスピーカーは Japan Foundation の原所長。
- International Workshop: Nominalization and Noun modification がサンフランシスコ州立大学において開催される。日時は 3 月 17 日（土曜日）10 時から 5 時まで。

（文責：須田）

「異文化トピックを教える日本語授業」
秋の例会開催

昨年 10 月 21 日北加日本語教師会秋の例会がシャボーカレッジに於いて「異文化トピックを教える日本語授業」をテーマに FLANC 学会と同時開催され、約 30 名の会員が参加し、活発な意見交換ができました。

サンフランシスコ州立大学の南雅彦先生が、New Development in Japanese Language Education Intercultural education from the perspective of cross-culture psychology という題目で、社会言語学的手法を用いた異文化における行動理解の仕方を紹介して下さいました。

カリフォルニア大学デイビス校の小山信子先生が、Getting Ready to Be an Intern in Japan: Case of JCHIP and Steps Toward Intercultural Competence という題目で、同校で行われている日本でのインターンプログラムの運営と成果について報告して下さいました。

サクラメント州立大学の増山和恵先生が、Promoting Intercultural Competence by linking curriculum to real world learning という題目で、同校の年間を通じた「おもてなし」の催し物を具体的に紹介して下さいました。

（文責：清水）



「茶の湯って何？」

San Francisco State University

Midori McKeon

日本の茶の湯は、茶碗の中で抹茶と湯を攪拌する「点茶法」の伝来によって発達しました。鍋の中で沸騰した湯に茶を投じ、煮出して飲む唐時代のお茶の飲み方は中国から 9 世紀の初めにはすでに渡来していましたが、点茶法は 12 世紀末に宋から僧栄西によって茶種と共に日本にもたらされました。その後 4 百年ほどたった 16 世紀に千利休 (1522-1591) によって茶の湯が完成されたとされています。中国では宋が異民族である元に滅ぼされたことと、元の後に来た明時代 (1368-1644) に皇帝の政策で葉茶の飲用が広まったために抹茶を飲まなくなり、現在、点茶法をもちいているのは建仁寺などの一部の禅院と日本の茶の湯だけです。

茶の湯は、抹茶をふるまうことを中心とした、日本のおもてなしの総合芸術であり精神文化です。 その中には衣食住全ての要素と広範な美術鑑賞、日本人としての立ち居振る舞い、禅の精神性が含まれているので、茶の湯を知らずして日本の伝統文化は語れないとも言われるほどです。そこには四季それぞれの趣を愛でて自然と共にある日本人の心があります。そして、茶の湯の精神は「和敬清寂」という言葉に集約されると言われます。亭主と客がこのような精神を大切に、一生にたった一度の貴重な出会い（「一期一会」）であるという気持ちで一服のお茶を点て、お茶をいただくことにより、茶の湯は成り立ちます。

正式の茶事は炭点前（大抵は初炭と後炭の 2 回）、お酒の振る舞いを含めた懐石料理、濃茶、薄茶を含めて全体で 4 時間ほどかかりますが、一般に知られているのはお菓子と薄茶だけをお出しする超略式の大寄せ茶会です。（わたしは、浅はかにも茶道というのは薄茶を点てることなのだと早がってんして、あれなら 2 年あれば覚えられると思って始めたのですが、それは大きな間違いでした。一生かかっても到底極められない奥深い道でした！）茶の湯には一応のルールがありますが、無限の応用が効き、そしてどんな茶会でも、道具の組み合わせは言うまでもなく、なんらかの独自の工夫が必ず必要となります。そう言った意味では亭主にとり、とても工夫するのが楽しいものです。そしてお客にとっても、この世に一つとして同じ茶会はないわけですから、伺うのがとても楽しみです。

良い茶の湯とは？

お茶の点て方さえ知っていれば、お湯と抹茶をかき混ぜてお茶を召し上がっていただくことはできますけれども、それだけでは茶の湯にはなりません。究極的には、自然と、茶室を含む物理的環境と、その場に集う人々の心と、道具と、自分の茶の湯の心が全て美しく調和したときに良いお茶ができるのだと思います。しかし、その真逆に、何も大した道具がなくても、茅屋の柱に花一枝を趣深く入れて掛け、亭主(host)が一生懸命にお客様のことを思って精一杯美味しいお茶を点てて、お客様がそれを感謝の気持ちで受け止めてくだされば、それだけで素晴らしい茶の湯になります。自分は黄金ずくめの豪華な茶室や高価

な唐物道具を好んだ太閤秀吉でしたが、北野天満宮での大茶会に於いて、茶釜がないので飯鍋に湯を沸かし手持ちの貧しい道具で堂々ともてなした市井の茶人のお茶を機嫌良く飲んで愛でたということです。要は不足を言わない禅の精神が大事です。

さて、もしお客様が亭主の趣向や心づくしを道具組みそのものから汲み取ってくだされば、亭主冥利に尽きると言うものです。そのような意思の疎通ができるためには茶人は色々勉強しなければなりません。

何を勉強するのか

色々何段階もあるお茶の点前を何十回も、もしかしたら何百回も練習し続けることの大切さはいうまでもありません。力仕事では、炉や風炉に入れる灰の作り方も覚えなければなりません。知識の面では理想的には何を勉強したら良いかという、それは無限にあって、一生かかっても学びきれものではありません。それぞれの分野が、専門家が一生をかけても研究し尽くせない深い分野だからです。歴史、文学、仏法、書道、絵画、日本庭園、茶室建築、陶磁器、蒔絵を含む漆器芸術、織物裂地、金属・木・竹などによる道具や造形美術、お香、花、料理、和菓子作り、着物…。だから、大抵それぞれの分野の、茶の湯に一番関わる部分だけを覚えてそれでよしとする場合が多いです。例えば、有名な茶道具とかその作者とか茶人の名前とか。

たとえ限度があっても、常に勉強し続けることはとても大事だと思います。わたしは日本文学が専門なので、道具にその場に最適な絶妙なる「銘」(poetic name)がつけられているとそれだけで嬉しくなります。逆に夏だからといって子供も来る大寄せの茶会に『源氏物語』の「螢の巻」にちなんだと称する道具を使ったりしていると品性を疑いたくなります。あの巻はとても妖艶でエロチックなのです。勉強のご褒美は道具の組み合わせからいろいろなストーリーや、歴史や、亭主の思い入れが読み取れて、その心遣いに感激し幸せになれることです。茶の湯では袱紗や茶入れの袋に布を使いますが、その裂地が、例えば「聖武天皇の肘掛の御裂地」であったり、ササン朝ペルシャ(224-651)の帝王の狩猟にちなむ「獅子狩文錦」であったりするのです。その遠い昔との繋がりが、遥か彼方の異国とのつながりというロマンがわたしは大好きです。

茶の湯は楽しい

茶の湯を知って、わたしは初めて日本人になれたような気がします。立ち居振る舞いもいろいろな礼儀もしっかり習えます。お茶をするのは、自分の体が健康で精神がしっかりしている時でなくてはできませんので、お茶ができるということは自分が恵まれていることであり、きちんと生きていることの証でもあるような気がします。ぐうたらな時はお点前さえできません。そしてお茶の稽古をした後は2時間くらい「心の広い良い人間」に成れます。運転も別人かと思うほど穏やかになるのです。そうしようと思わなくても自然に。だから、お茶は「動く禅」と言われるのかもしれませんが。座禅をするのと同じ効果が生まれます。茶の湯は小さな幸せを一杯与えてくれます。竹の花入に入れられた一輪の花の美しさに涙が出るくらい感動したりします。日本の美術館に行って、南蛮から渡来したという、何の釉薬も掛かっていない水差しの前に1時間座って眺めていても見飽きなかったりします。勉強のところでリストアップした全ての分野の事物が喜びの源泉になります。もちろんお菓子やお茶の美味しさはいうまでもありません。お茶は凄く楽しいですよ。

お知らせ



お知らせ

総領事館インフォメーションセンターから

1. 第51回北加桜祭り

第51回北加桜祭りが4月14-15日（第3週末）及び21-22日（第4週末）にサンフランシスコ日本町において開催されます。この祭りには毎年20万人以上の人々が来場し、米国内でもワシントンDCの全米桜祭りに次ぐ規模の桜祭りとなっています。様々な日本関連のイベントが行われますので、学生や生徒の皆さま、コミュニティの方々に広くご案内ください。

北加桜祭りの詳細についてはこちらをご覧ください：

<http://sfcherryblossom.org/>

2. 国費外国人留学生の募集

4月中に2019年度国費外国人留学生（学部留学生・研究留学生）の募集を開始する予定です。この奨学金では、学費（入学金、授業料等）、毎月の生活費（一定額）及び渡航費が全て支給されます。是非、日本への留学に関心のある学生及び生徒の皆さまにご案内ください。詳細は[当館ホームページ](#)にてご確認ください。

【学部留学生】

日本の大学に4年間在籍。大学進学前に1年間の日本語予備教育を受けるため、留学期間は計5年間となる。（ただし、最初から高い日本語能力を有する者は日本語予備教育を省略することが可能）。

【研究留学生】

日本の大学院修士課程、博士課程等に課程を修了するまで在籍。学位取得を目的としない場合は、大学院等において専門の分野の研究を行う（最長2年間）。

3. 学校訪問プログラム

当館では、日本や日本文化について学ぶ初等・中等教育機関（K-12）の生徒を対象に、日本への理解を更に深めてもらうことを目的として、当館職員による[学校訪問プログラム](#)を実施しています。先生方が希望されるテーマでプレゼンテーションを行います。これまで取り上げたことの多いテーマとしては、日本の歴史、ポップカルチャー、日本の学校生活、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会等があります。初等・中等教育機関を主な対象としていますが、大学レベルの訪問も可能です。なお、費用はかかりません。

ご関心のある方は、当館スティーブ・ゴールドマン職員までお気軽にご連絡ください。

TEL: 415-780-6086, FAX: 415-767-4202, Email: steven.goldman@sr.mofa.go.jp

第46回小学生日本語お話大会

北加日本語教師会が北加日米会ならびに在サンフランシスコ日本国総領事館と共催する『第46回小学生日本語お話大会』（46th Annual Japanese Speech Contest for Elementary School Students）は、3月4日（日）にサンフランシスコ・ジャパントウンの Japanese Cultural and Community Center of Northern

California (JCCNC) で開催されました。当日は、前日まで吹き荒れていた春の嵐も嘘のように過ぎ去って、穏やかな一日となりました。ベイエリアの 9 校 (American International Montessori School, Clarendon JBBP Elementary School, eLoha Japanese School, Kinmon Gakuen, Little Angeles Japanese School, Pine Japanese Language Afterschool, Rosa Parks JBBP Elementary School, Sakura Gakuen, San Mateo Nippon Gakuen) から参加した 40 名の小学生が、心温まるお話、大好きな行事、自然への関心、将来の夢、家族、日常生活など、さまざまなお話を写真などのプロップを用いながら身振り手振りで熱心に話し、日頃の学習の成果を披露してくれました。小学校 1 年生から 3 年生までの低学年カテゴリー、4 年生以上の高学年カテゴリーに分け、さらに家庭で日本語を話さないグループと、家庭で日本語を話すグループに分けることで審査の公平を期しました。カテゴリー1 (家庭で日本語を話さない小学生 1 年生～3 年生) 4 名、カテゴリー2 (家庭で日本語を話す小学生 1 年生～3 年生) 14 名、カテゴリー3 (家庭で日本語を話さない小学生 4 年生以上) 10 名、カテゴリー4 (家庭で日本語を話す小学生 4 年生以上) 12 名、4 カテゴリーで計 40 名、各発表者のお話の制限時間を 2 分としました。日本語を外国語として学校で学んでいるお子さん、日本語をヘリテージ・ランゲージ (継承言語) としてご家庭でご使用のお子さん、いずれにしても、第二言語でスピーチをすることはたいへん勇気のいることで、人前でスピーチをするとすると、その困難さはいっそうのことです。それにもかかわらず、とてもすばらしい出来映えでした。学校やご家族をはじめ、約 120 名の方々の応援で盛会となりました。本大会に出場するために練習を積んできた出場者の皆さん一人ひとりの健闘を讃えたいと思います。お話大会は今回が 2 回目のご参加で審査員長をお務めになった在サンフランシスコ総領事館の永吉昭一首席領事もその日本語スピーチレベルの高さに改めて感銘していらっしゃいました。首席領事からは「歴史、伝統あるお話大会の成功は当地での日本のプレゼンスを高めるだけでなく、これからの日米関係にも好影響を与えることは疑いない」と称賛のお言葉をいただきました。

審査は、前述の永吉首席領事を委員長として、日系地域社会で活躍しているリーダー、日本語の普及に従事している地域の日本語教師の方に依頼し、入賞者を選出しました。北加日本語教師会ばかりでなく加州日本語教師会でも役員をお務めの伊藤潤子先生 (UC Davis) には日本語教師を代表して審査員をお務めいただきました。高松信子先生 (サンフランシスコ州立大学、金門学園など) には北加日本語教師会を代表して受付などのお手伝いをいただきました。入賞者には賞状と賞品そしてトロフィーを授与、各カテゴリーで 1 名に特別賞を授与、参加者全員にも賞状、参加賞、そしてトロフィーを授与することで、入賞者と遜色のないようにし、教育的にも配慮しました。

大会委員長は 3 年連続で南雅彦 (サンフランシスコ州立大学) が務めました。なお、今回の結果は下記の通りです。この場をお借りして、後援団体、関係者、審査員の方々、多くの方々のご協力のおかげで、「第 46 回小学生お話大会」が無事に開催できましたことを心より感謝申し上げます。(文責：南)

カテゴリー1 家庭で日本語を話さない小学生 1 年生～3 年生

一等賞：セリム・リチャーズ (Grade 3, Clarendon JBBP Elementary School)
「ぼくのひらめきのもと」

二等賞：ザーラ・アリ・ダーディ (Grade 3, Clarendon JBBP Elementary School)
「大きなまちがい」

三等賞：キヨミ・ダラスキッド (Grade 3, Kinmon Gakuen)
「おばあちゃんへの手紙」

特別賞：マサオ・リー (Grade 3, Sakura Gakuen)

「ウルトラマン たい 仮面ライダー」

カテゴリー2 家庭で日本語を話す小学生1年生～3年生

一等賞：玖・元音・ディフェボレズ (Grade 3, eLoha Japanese Classes)
「行ってみたい国 ペルー」

二等賞：西岡 莉里 (Grade 2, American International Montessori School)
「ミツバチ」

三等賞：フジイ 真育 (Grade 2, Sakura Gakuen)
「ひみつのえんぴつ」

特別賞：エヴァン・優蔵・ファルコナー (Grade 3, American International Montessori School)
「プラスチックスープ」

カテゴリー3 家庭で日本語を話さない小学生4年生以上

一等賞：タケダ マユミ (Grade 5, Clarendon JBBP Elementary School)
「私の特別な場所」

二等賞：ジョセフ・ルイ (Grade 5, American International Montessori School)
「宇宙の研究」

三等賞：アビヤ・パダトゥーリ (Grade 5, American International Montessori School) 「アメリカをよりよい国に」

特別賞：ユイン・ヴァンホルダー (Grade 5, Clarendon JBBP Elementary School)
「くるみ割り人形の舞台裏」

カテゴリー4 家庭で日本語を話す小学生4年生以上

一等賞：森本 杏樹 (Grade 5, Clarendon JBBP Elementary School)
「おじいちゃんが残してくれたもの」

二等賞：宮崎 凜奈 (Grade 5, Clarendon JBBP Elementary School)
「シンクロナイズドスイミング」

三等賞：ヒュー・ムーア (Grade 4, eLoha Japanese Classes)
「いろはと僕」

特別賞：シュナイダー 輝栄 (Grade 5, Sakura Gakuen)
「ぼくの心の宝物」

第5回お茶三昧

2018年茶の湯と茶文化に関するS.F.国際会議

The 5th Ocha Zanmai
2018 San Francisco International Conference on
Chanoyu and Tea Culture
Sunday, April 29

Conference 会議 8:50 a.m. - 6:00 p.m.

Buffet Dinner Reception 親睦夕食会 6:15-8:15 p.m.

San Francisco State University

1600 Holloway Avenue, San Francisco, CA 94132

Theme

Food Culture of Chanoyu: Tea, Confections, and Kaiseki Cuisine

茶の湯の食文化：茶、和菓子、懐石/会席料理

<講義>



先生の紹介欄



スタンフォード大学 ポール・ガニア氏
「お服加減いかが？：濃茶と薄茶の点て方について」
カリフォルニア大学デービス校栄養学部 リサーチ栄養学者
ロバートM. ハックマン博士
「健康ドリンク お茶の科学」
同志社大学 文化情報科学大学院教授 矢野環博士
「神道から懐石へ」
茶道裏千家淡交会サンフランシスコ協会 幹事長 ラリー 宗橋 ティスコニア氏
「茶の湯における懐石料理の実践について」
(パワーポイントスライドによる講義)

<デモンストレーション>

会席料理

東京竹葉亭オーナー 津田兼太郎氏
竹葉亭西宮店料理長 荻野祐司氏
竹葉亭大阪リーガロイヤルホテル店料理長山下正芳氏
「季節を楽しむ和食～春～」

和菓子

京都の和菓子作家 杉山早陽子氏 (屋号御菓子丸)
「今に続く和菓子の歴史」

お昼休みの呈茶 (杉山早陽氏創作の和菓子と柳櫻園のお抹茶) と杉山氏の和菓子が当たる**籤引**もお楽しみください。

Inquiries: mmckeon@sfsu.edu

Information: <http://mll.sfsu.edu/>

registration: <http://sfsu.simplenetix.com/>

Early Bird registration ends on MARCH 15.

(文責：McKeon)

先生の紹介欄

マケール菅野尚子先生

- お名前を教えてください。
マケール菅野尚子です。
- 教えている学校名、町を教えてください。
サクラメント近郊のデービスという町にあるデービス高校とカリフォルニア大学デービス校で教えています。
もちろんどちらもパートですが。
- 日本語教師はいつから？
高校では1994年に教え始めました。今年で24年目です。大学の方は4年目です。
- ご趣味は？
月並みですが、旅行です。自然を満喫する旅行も好きですが、昔から歴史に興味があるのと主人が元アメリカ史を教えていたこともあって歴史的な名所を訪れるのも大好きです。でも、最近は、日本の温泉に行くのが一番楽しみです。
- 日本の出身地は？



岡山県倉敷市です。

➤ **アメリカに来てから何年ですか。**

1991 年に来たので、27 年目です。

➤ **仕事について、何か一言お願いします。**

高校で長く教えているので、生徒達の興味や考え方、そして勉強の仕方がどんどん変わっていったことに気付かされます。彼らにとっておもしろく役立つ授業をしていくには、自分自身も常に柔軟に新しいものを取り入れていく姿勢を保っていかなくてはならないと実感させられる毎日です。日本語を教えるという仕事は、いろいろな意味で大変ですが、やはり楽しくやりがいのある仕事ですね。

➤ **会員みなさんへのメッセージがあればどうぞ。**

24 年も続けてこられたのは、北加の会員の方々を始め、多くの先生方から刺激と支援を受けてきたからこそです。これからもよろしくお願い致します。

では、よろしくお願い致します。

私の学校でこんなことが……

学校からの
ニュース！

プレシディオ中学校



お正月週間として、正月三が日ならぬ五日間、自分たちで餅を丸めてのお雑煮作り、書き初め、初詣、カルタや福笑いのお正月のゲームなど、日本のお正月の疑似体験を行いました。
(文責：田中)



2018年1月14日サラトガ市箱根ガーデンで、英明大学による初詣会・成人式祝典が行なわれました。英明大学学長によるおごそかな新年・成人の儀、サンフランシスコ日本総領事館の庇護哲史副領事からのご祝辞、ご来賓による鏡開きをはじめ、地元住民200名を越える来場者が初詣参拝、餅つきや書初めを楽しみ、ステージでは琥珀アートによる日本舞踊披露の後に、参加者全員が踊りに参加するなど大変な盛り上がりを見せました。日本の伝統的な新年・成人を様々な人種の人達と祝う事で一体となり、心の触れあいを深めました。

(文責：三上)

北加日本語教師会
連絡先

NCJTA Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>
NCJTA. c/o Noriko Nagata
Modern and Classical Languages, Kalmanovitz Hall 382
University of San Francisco
2130 Fulton Street, San Francisco, CA 94117-1080
E-mail: nagatan@usfca.edu

<役員>

会長：Noriko Nagata 永田憲子(同上)

副会長：Masahiko Minami 南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu

書記：Kyoko Suda 須田恭子
University of San Francisco
E-mail: sudak@usfca.edu

会計：Mayu Kondo Loffgren 近藤真由
San Jose State University
E-mail: mayu200987@gmail.com
Momoe Saito Fu 斉藤百恵
Stanford University
E-mail: msfu@stanford.edu

ニュースレター編集 : Wakae Kambara 神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu

広報: Masako Shimizu O'Bryan 清水オブライアン真佐子
University of California, Berkeley
E-mail: masakoshimizu@sbcglobal.net

フランク連絡員: Masahiko Minami 南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu
Nobuko Takamatsu 高松信子
E-mail: nobukot@sbcglobal.net

ウェブ担当: Koraku Mikami 三上香楽
Eimei University
E-mail: tmfrontier@gmail.com

<各レベル代表>

小中学校代表 : Kaori Waki 和氣かおり
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: kwaki@sbcglobal.net
Rie Tanaka 田中理恵
Presidio Middle School
Email: rietanaka@gmail.com

高校代表 : Nicholas Sturtevant ニコラス・スタートエヴァント
Silver Creek High School
E-mail: nicsensay@gmail.com

学園代表 : Yoko Uda 宇田陽子
Soko Gakuen
E-mail: yokouda_n@yahoo.co.jp

コミュニティーカレッジ代表 : Akihiko Kumakura 熊倉昭彦
Diablo Valley Community College
E-mail: AKumakura@dvc.edu

大学代表 : Junko Ito 伊藤潤子
University of California, Davis
E-mail: jito@ucdavis.edu



Northern California Japanese Teachers' Association